新羽中だより

令和３年10月14日（木）
10月号
横浜市立 新羽 中学校
☎542-1680 FAX 541-1038

『東京2020パラリンピックの意義』

校 長　荻 野　弘

東京2020パラリンピックが８月２４日（火）～９月５日（日）の約２週間の日程で、162の国・地域の約4,400人の選手が参加し、22競技539種目で白熱した戦いが繰り広げられ、日本は金13個、銀15個、銅23個の合計51個のメダルを獲得しました。

パラリンピックの発祥はイギリスで、第二次世界大戦で負傷した兵士の社会復帰のためにロンドンの郊外にある病院でリハビリ用にスポーツを取り入れたことが発端になっているようです。1960年のローマでの大会を第１回パラリンピック競技会と位置づけ、以降回を重ねるごとに障がいの範囲を広げ、実施競技や参加人数も大きく増やし発展してきました。日本では、1964年の東京と長野冬季に続き、３回目の開催となりました。1964年の東京五輪開催は東海道新幹線、首都高速道路の開通など日本の経済やスポーツの大きな発展のきっかけとなりましたが、パラリンピックの開催は日本の障がい者スポーツが全国的に広がり、その後の大きな発展につながりました。同時に障がい者の就労が進み、障がい者の自立や社会参加にもつながりました。

東京2020五輪の選手たちの活躍と一生懸命な姿は、私たちに大きな感動をもたらしてくれましたが、東京2020パラリンピックは感動だけでなく、勇気も与えてくれたと思っています。誰もが個性や能力を発揮し活躍できる公正な機会が与えられている場であるパラリンピックの競技のなかで、様々な障がいのあるアスリートたちが困難があっても創意工夫を凝らしてあきらめずに限界に挑戦し続ける姿は、見る者にとって驚きや感動を与え、元気や勇気を生み出してくれました。「失われた機能を数えるのではなく、残された機能を最大限に活かそう」とする精神で、限界に挑戦していくアスリートの姿に接すると「障がいがあることが不可能を意味するものでない」ということに気づかされます。自らの可能性に挑むパラリピアンの姿は、障がいや世代、性別、国籍を超えた人間の「個」としての尊さを伝え、一人ひとりの違いを認め合うことの大切さを体現しました。

この「個」としての尊さ、「違いを認め合う」ことの大切さを強く身近に感じた今だからこそ「共生社会」の実現に向けて、学校現場で積極的に取り組む好機であると感じています。数年前のことですが、その時の勤務校で、３年生の卒業期の特別時間割で、車椅子バスケットの選手をお招きして、実演と講演をしていただいたことがありました。スピードのあるプレーと正確なシュートに驚かされ、感動的なお話しに勇気をもらったことを思いだしました。緊急事態宣言下でもパラリンピックを見学しようとする学校多くがあり、賛否が分かれましたが、「個」としての尊さ、「違いを認め合う」ことの大切さを直に見せたいという思いは大いに理解できるものと思っています。

大切なことは「個性の尊重」「多様化と調和」「共生社会の実現」といった理念を言葉だけに終わらせず、具体化をすることではないでしょうか。

体育館改築日記　1

夏休みから本格的な改築工事が始まりました。体育館をすべて取り壊して、新たに新築するのではなく、骨格となる鉄柱部分だけ残して、それを利用して改築する工法で行われます。３月の完成、使用開始の予定です。

体育館の入口、トイレ、管理員室、用具を置くスペースだった「付帯」と呼ばれ部分を取り壊し、広げるための工事をしています。　〔９月３日撮影〕

騒音対策のため、体育館の周りに足場を組み、防音のシートで覆っています。体育館内の様子を見ることはできませんが、フロアーの木材も撤去されているようです。

〔９月６日撮影〕

広い器具庫をつくるために付帯の部分を広げています。基礎を頑丈ににするために、地面に鉄柱を埋め込んでいます。この作業車はとても大型の車なので、通行する他の車両に迷惑をかけないように、早朝に運転してきたようです。　〔９月１７日撮影〕

新羽の歴史を垣間見て　3

（・・・2から続く）昭和初期から盛んになった丘陵部での花卉（かき＝草花、観賞用の植物）栽培は洪水の被害を受けないので、農家に生活の安定をもたらし、現在でも新羽地区の地場産業として定着しています。花の里づくりの会もあります。

一方で、水害を無くすために、昭和22年から27年にかけて鶴見川の改修を行い、曲がりくねった流路を直線に直しました。その工事をしていた昭和24年に土地改良法が施行されたのを受けて、土地改良組合が組織され、農業の生産性を高めて合理化を図るために耕地整理事業が始まりました。しかし、時代は戦後復興から高度経済成長へと転換します。昭和33年に鶴見川沿いの平野部は準工業地帯に指定され、昭和36年にはコメの生産調整も始まります。第三京浜道路の建設が始まると、工場進出が一気に進み、農地は工業地帯へと変ぼうしていきました。用水路は役目を終えて排水路になりますが、下水道が普及するとそれも不要になりました。水路は埋め立てられ昭和61年から新田緑道として順次整備・公開が始まり、平成22年に14ブロック約1.8Kmの全区間が完成しました。周囲には今も多くの工場が立ち並んでおり、緑道には、それらの工場から寄贈された古い機械や部品がオブジェとして飾られています。さらに、平成5年に市営地下鉄ブルーライン、平成7年に宮内新横浜線幹線道路（新羽駅以南）が開通すると宅地化が進み、新羽地区は大きく変ぼうを遂げました。各駅周辺や幹線道路沿いにマンションが建設され、若者世代の増加が目立つようになり、平成28年5月31日現在の人口は、6,365世帯13,117人となっています。旧長島地区にある北新横浜駅は、開業当時は「新横浜北駅」でしたが、新横浜駅と勘違いされることが多く、平成11年に駅名を変更し、地名も北新横浜に改めました。駅周辺は、当初は、空き地が広がっていましたが、最近では商業施設やマンション、オフィスビルが立ち並んでいます。開発が進む平地と昔の面影を伝える丘陵部、その境には神奈川県道13号横浜生田線が走っていますが、その道路際には蔵が多く立ち並んでいます。地場産業だった寒中そうめんを貯蔵していた蔵もあります。また、伝統行事としては、中之久保地区の「注連引き百万遍」三谷戸地区の「廻り地蔵講」が横浜市の無形民俗文化財に指定されています。・・・続く　　『わがまち港北３』より

中学校給食　いち推しメニュー

１０月１８日　行事食「十三夜（豆名月）」
お月見つくね・うずら卵、変わり五目豆、もやしとわかめのじゃこ和え
かぶと小松菜のみそ汁、ぶどうゼリー、雑穀ごはん

１０月１９日　「まごは（わ）やさしい」献立
牛肉と野菜のすき煮、海藻サラダ、昆布豆、カツオの香味だれ、
なめこのみそ汁

１０月２８日　人気のから揚げの新味
梅しそからあげ、変わりきんぴら、切り干し大根の煮物、
わかめとじゃこのサラダ、かきたま汁

当日注文も可能です。安価で栄養たっぷりの中学校給食をご利用ください！！